

常磐文藝
一日一吠馬句付集 (三)
頗る毒句罵句付集

◎所がヂヤ其うるさく啼く
雉子ごのをかつぎ廻して之
れがおれの本尊ヂヤごうか
お賽錢を上げてくれイヤそ
ちらの本尊は御利益がうす
い俺の方の本尊様があらた
かヂヤイヤ俺の方が梅が香
ひがよい俺の方が櫻は色が
よいごつちごつちへ觸れ
廻る有志家と云ふ氏子連の
うるさい事と云つたら折角
花の下の半口の客となつて
うまく一杯傾けやうとする
所へごんだ物貰ひに舞込ま
れた氣がするヂヤヤ
酒ねだる人うるささ
や花の山

路ゆく三人の友へ
岸本哲雄
あやふい路をゆく者よ
今迄お前の見結めてゐたも
のは
そりや虚偽なのだよ
そして又灰色のものなのだ
ほんごに要心してくれ
ある行路病者よ
よく足元を見て歩いてくれ
お前のゆくその路上には
中はほんごに冷たく
上皮のあまりに熱のある
石ころが
お前につまづかせ様として
ゐるのだ
ほんごに要心してくれ
特種な饒舌家よ
暗い心の舗道を歩いたつて
そんなに騒がないでくれ
顔に虫がとまつたつて
そう呻くのは止してくれ
ほんごに要心してくれ
——一九四四、二——

一切の藥品、賣藥
醫料器具類各種
▼化粧品卸小賣▲

他店より高價なりし場合
は差額の倍金をお返し致
します
くすりあわせ所
病癒相談所
所長 宇佐美友二郎
藥劑士 佐美友二郎
平町古鍛冶町
(天理教西隣)

荷入質地行流句節季
店服洋屋島高
チマミナミラヒタ
廉低格價・巧精縫裁

春季大特賣均一制度
郷土社
原稿紙大廉賣
四百字詰 百枚 三十錢
五百字詰 百枚 二十錢

牛肉と葡萄酒
米國スニット會社一號
コンビーフ牛肉 正味九十
甲斐産商店勝沼工場製 夕入一罐 金四十錢

大黒葡萄酒 正味 金一圓七十錢
洋酒罐詰食料品商
西村藥舖
平町二丁目
電話三番

春の衣新の柄帯
ルネミルセの柄珍
候申揃取富豊
店服吳井三 町平

春の用意の意
松本の西洋菓子
春だ、春だ、野も、山も
いつしか家庭も春めいた
春うららかな外出日
友訪れの好日和自然好か
れる、西洋菓子、進物用は
別けてよい春だ春だ野も
山も春の用意は今すぐに

秀優群抜
千代田火ノシ
富貴コテ！は
平町五丁目
和洋鋼鐵
金物問屋
釜屋商店
電話 一三九番

東新株 先限
丸登株式店
前場後場共入電致居候
平町田町 電話三三二番
川添房二郎

株式買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

磐城銀行	五〇〇	時價
平銀行	五〇〇	
磐越銀行	一一五	七三〇
磐城銀行	三〇〇	二九五
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七〇
農工銀行	二〇〇	二五〇
同 新	一五〇	一八八
同 新	五〇〇	五五〇
同 新	一一五	一六〇
同 新	一一五	九八
同 新	一一五	三八五
同 新	一一五	一八〇
同 新	一一五	七三
只見川電	一一五	一五五
植田水電	一一五	一四五
好問水電	一一五	一四五
磐城建物	一一五	一四五
磐城製菓	一一五	一四五
平信託	一一五	一三五
磐城製菓	一一五	一三五
植田物産	一一五	一三五
平製水	一一五	一三五
好問軌道	一一五	一三五
入山新	一一五	一七〇
小田炭礦	一一五	一一〇
磐城炭礦	一一五	四三〇
同 新	一一五	一九〇
磐城セメント	一一五	七三〇
同 新	一一五	三八〇
同 新	一一五	三八〇
平運送	一一五	八〇

恩の深厚なるに益々感激し
て愈々奉公の道に精進せね
ばならぬ等なるに拘はらず
最近に於てはその特權を濫
用し、動もすれば平家の清
盛の如く藤原道長の如く、
徳川氏の如く潜越至極の振
舞がある様である。内閣の
更迭する毎に、政變ある度
に飛び出し來つて感情を偏
破と獨斷に依り、一味徒黨
の人々をして組閣せしめる
先に公川縣有朋あり。今某
々二三氏あり。世之れを稱
して元老政治といふ。實に
奇怪至極の政治である此の
元老を周圍に官僚閥族とい
ふ特權者があつては眞の政
治は實現しない(終)

常磐新聞
定部金貳錢 廣五號十二休日曜大祭
一月極限 告五字詰一行刊 祝日ノ翌
一ヶ月掛 料五十錢 日刊 印刷所 一〇活版所
發行兼編輯人 川崎文治
福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地
發行所 常磐毎日新聞社

元老政治否認
山田綠雨生
現代日本の政治の中心勢力
は抑々何人が是を握るか。
政黨乎、青年乎、民衆か。
悉く然らず。二三の元老が
政界の中心勢力である。
實に不可思議千萬な怪事で
ある。元老はよく内閣を作
つて内閣を倒すと噂される
現内閣組織の跡を觀れば明
白である。
讀者諸君、日本帝國は建國
以來一君萬民の政治であつ
た。上御一人と下萬民の民
本政治立憲政治であつた。
源、平、藤、橘、豊臣、徳川は

星氏を應援して 飽迄理想選挙を標榜

老生三十餘年來の親友を
赤坂革新翁語る

『親切第一』の標語と『クスリはホシ』で全國的に其名を知られ五千萬圓の大製薬業者として世界的な偉材の一人に數へられる星一氏を就いて其身の去就を注目されて居た石城政界の大建物革新派の元代議士赤坂龜次郎氏は既記の如く政派と協調を保つて極力星氏を應援すべく遊説班の陣頭に立つて獅子吼する事と決定したが右に關して赤坂翁は語る

星製薬取次店大會にて講演の爲め關西地方を旅行中であつた星一氏は本日歸京すべき爲め高岡唯一郎、安島重三郎、金成通、小林藏次の諸氏は今明日中午に上京し

推薦報告 頭末報告

今明日に上京
心臓の響きか
磐城無電へ

去る七日米國ベニシルウニア洲のピンクパークから心臓の鼓動を無線電話で放送したのが磐城無電局にも響いて聞きたこといふ

て推薦頭末を報告する由
郡電平支店の
電球交換料

郡電平支店では四月一日から同會社供給の電球交換料を値下げしたが従來五燭光から三十二燭光まで一個二十五錢であつたものが五錢の値下げをなし二十錢となつたが其他の燭光値下げ料金は左の如くである

燭光 従來料金 値下後料金	五	二五錢	二〇錢
一〇	二五	二〇	二〇
一六	二五	二〇	二〇

二四	二五	二〇
三二	二五	二〇
一〇〇	七〇	七〇
二〇〇	一七〇	一七〇
四〇〇	二六〇	一八〇
五〇〇	二九〇	二三〇

縦横の新道路を開通

青沼氏を委員長に
道路敷地は地主の寄附、平町にては大都市計劃の第一着手として南裡に大道路を開鑿すべく近く小名濱商事の手を依りて起工すべきは既記の如くであるが更に同町の山の住宅地として近來長足の發展を遂げた舊城跡一帯を開發せんが爲め同地居住者が自發的に新道路開鑿既成同盟會を組織し左記委員を決定

(委員長) 青沼録太郎(常任委員) 眞木正元、三村直直、鈴木廣吉、國府田子之次、加藤康(委員) 中村一貞外十三名

六間門から女學校へ、杉平から胡麻澤へ、女學校から丹後澤へ御藏前から三の丸

カテイラン
鯉節の選び方

鯉節は産地や漁獲期によつて製品に上下がありまますがまづ伊豆節、土佐節、薩摩節などは、本場物だけに品がよいございます。鯉節の良否は慣れませんが一寸分りませんが、一般に上等品といふのは、形の整つたも

鎌田情死の
片破れ死す

屍体は姉に
平町鎌田遊蕩萬歳樓の娼妓喜仙と情死を企て一人生き残つた半谷武次(三)は金成病院に入院加療中去五日突然發熱して六日午前九時半

遂に死亡し屍体は姉に當る石城郡湯本町表町湯屋業塚本こうに引渡さる

娘が
列車を停める

平郡線にて
六日午前十時頃磐越東線小川郷江田信號所間に於て石城郡上小川村草野金三娘マキ(七)は線路地内に立入り進行中の列車を停車せしめたので家人は其前に呼び出され説諭された

白水に演武場石城郡
白水武道研究会に於ては演武場の設備なきため練習の困難を感じつつあつたが此程會員發企となつて入山川平に五百圓を投じて演武場を建設することに決定した

羅馬の使者 小阪の映
界マネキ
無類の出来で、腹がよく延松までは中々だけれども、若手だ、みどりさのラゲーション丁度似合はしくママ事の夫婦の如く愛らしいみどりの情年が、若から完全さまで行かないけれ共狂氣してからなとも中々にいい表情があつた笑三豊并共に適役(学生)

募集 文藝其他一般投
て品を吟味することが一番大切なのであります。また品のよいものは經濟にもなります。

不平受付
本町通り下水 大正十年十月頃と記憶して居ますが一二丁目通り軒下下水を掘りコンクリートで固める計劃があつたのに今でも實現しないのはどう云ふ譯でせう(二丁目生)

東株前場引値(本誌)
先物 九五、九〇〇
實限 九七、一〇〇〇

常磐片々

細工は流々仕上げ御らうじろと乙に氣取つた政友幹部マツカと思つた『クスリは星』の製薬王を擔ぎ出す

成程、成程
而し百票や二百票のキソドイ勝ち方では寧ろ製薬王の顔に泥

比佐を弱者と見くびつたら木から落ちた猿同様の吠え面かくぞ

先日比佐候補が政見發表の皮切り演説にトルコの人氣

男ケマルバンヤをマケルバンヤとやつて平氣な顔

マケルバンヤでミソをつけてはサイ先が悪いと憲派の連中擔ぐ事、擔ぐ事

ソナナ事を擔ぐ暇に働け、働け

激戦を豫想し
選挙の心得

近く平署から
平署にては選挙戦激烈なるべきを豫想し近く左記選挙の心得書を配附する由

△金銭や品物や手形などを貰つてはならぬこと
△櫻應や接待を受けては

ならぬこと
△公私の地位を得ること

△投票所へ往復に乗物に乗せて貰ひ又は車馬賃や茶代宿料を貰つてはならぬこと

△用水や小作料や賃借などの利害關係に誘はれてはならぬこと

△選挙人や候補者や運動者などの身邊に追隨したり又は嚇したり拐かしたり騙したり其往來の便を妨げたりしてはならぬこと

△候補者の當選を妨げる爲め有りませぬ事柄を言ひ觸らしてはならぬこと
△演説會場で會衆の妨害となる言動をしたり其の他さわりだり狂暴ではならぬこと
△大勢集つたり鐘太鼓を鳴らしたり旗を立てたり

して示威運動をしてはならぬこと
△銃器や槍や月や棍棒のやうな物を携帯してはならぬこと

△大勢集つて亂暴をしたる騒ぎを起してはならぬこと

平町では
白米の値が騰る

賣惜みの爲め
石城郡内の農家では玄米の先高を見越して賣り惜しみまする爲め平町の白米は一升に就き一錢宛小賣相場の値が騰り左の如く改つた

(特等) 四十三錢(一等) 四十二錢(二等) 四十一錢(三等) 四十錢